

ふれんど

2016
第31号

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】



特集

むさしの

あつたかまつり

地域・福祉・教育の連帯で
育まれた地域のおまつり

まちの人に聞きました。「福祉って何？」

むさしのばやし

山崎 義勝さん

ワンポイントアドバイス

心の荷物を半分に減らそう

食を通じて地域とつながる

カフェ・ル・ブレ

カフェで使える
クーポン付き
⇒5ページ

特集 地域・福祉・教育の連携で育まれた地域のおまつり

あったかまつり

「むさしのあったかまつり」をご存知でしょうか？だれもが「あったかい」気持ちになれるようにと命名されたイベントで、昨年10月の実施で15回を数える歴史を持っています。福祉とは「誰もが幸せになること」を意味します。この大きなテーマに少しでも近づけるように取り組んできた「むさしのあったかまつり」についてご紹介したいと思います。



**誰でも参加して楽しめる
市民が集うイベントに成長**

平成27年度、むさしのあったかまつりは15回の節目を迎えました。武蔵野市主催の「福祉展」からスタートし、当法人が主催を引き継ぎ、第4回からは、地域の方々と協力しあって運営する実行委員会方式となり、「障害がある方が主役になって楽しめるイベント」をスローガンに歴史を重ねてきました。回を重ねるごとに認知度も上がり、大野田小学校で開催する頃（第12回〜14回）には「障害がある方だけでなく、多くの市民が集うイベント」として成長しています。

第15回では初の試みとして、武蔵野障害者総合センターと中央通りさくら並木公園の2会場で開催しました。その結果、前回までの一体感が残しつつも、障害がある方が安心して参加できることの大切さを確認し、地域の皆様に武蔵野に親しみを持ってもらうことへの更なる探求心を意識することができました。この原点と展望は、これからもむさしのあったかまつりを通して地域に根差していくものと考えています。



第12回よりシンボルマークとなる横断幕ができました！

おまつりで地域の活性化

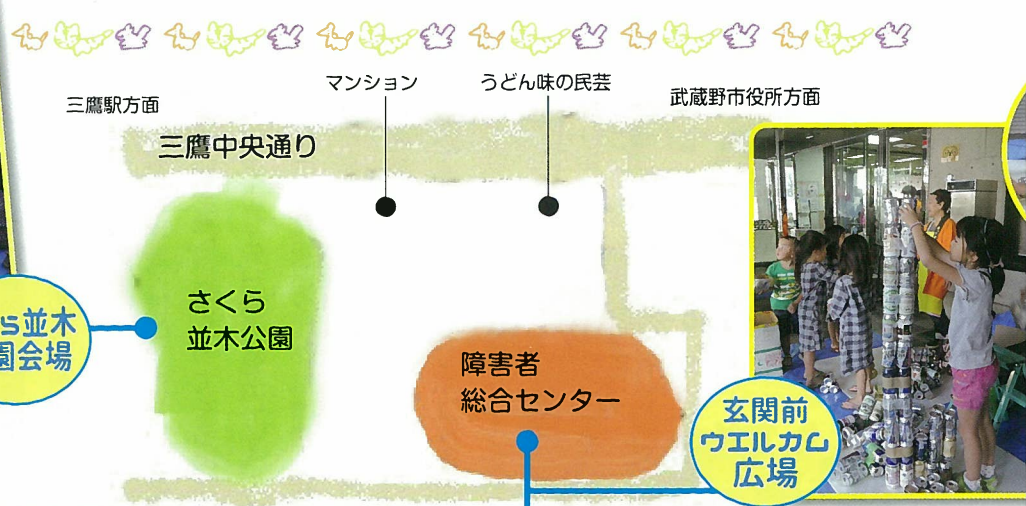
あったかまつりは、地域、福祉、教育がうまく連携しているところも魅力の一つです。福祉団体、地域社協、ボランティア団体それぞれの得意分野を活かして役割を担っていること、大学生が運営にかかわっていること、中高生が積極的にボランティアで参加していること、小学生の体験学習の場

● あったかまつりの歴史 ●

平成27	平成24	平成22	平成17	平成16	平成13	平成12	平成11
実行委員会 / 社会福祉法人 武蔵野 主催					社会福祉法人 武蔵野 主催		市 主催
第15回むさしのあったかまつり @障害者総合センター、 さくら並木公園	第12回むさしのあったかまつり @大野田小学校 ●初の小学校での開催、児童・保護者をはじめ多くの地域の方々参加。	●10回を記念してテーマソングやTシャツを作成。 第10回むさしのあったかまつり @3会場	●第4回の会場に武蔵野福祉作業所が加わり3会場に。 第5回むさしのあったかまつり	●初の実行委員会形式の開催。パネル展と各種イベント開催。 @障害者総合センター、 中央図書館前	●従来の催し物の他、うたまつりやダンスパーティー等各種イベント開催 第1回むさしのあったかまつり @スイングホール	●作品展、パネル展の他、イベントも開催 新福祉展@市民文化会館	●作品展、パネル展、交流広場 福祉展@市民文化会館



外での工作は気持ちがいいよ!



恒例の“缶積み”
高いタワーでワクワクです



食堂

やはり“食欲の秋” 食べ物人気です



あったか
ステージ



マルシェ
広場

自慢の一品がずらり、お買い得商品てんこもり



地下
展示室

ハロウィンにちなんだ作りました



日頃の練習の成果を聴いてください

模擬店「だがし屋ひーと」への参加をふりかえって

地域生活支援センターひーと
Kさん



話し合いのとき、司会を担当した。話がなかなか進まなかった。そのときは、ぼくの隣にいたSさん(他参加者)に、「なにをやりたいか?」と相談しながら進めた。当日は、「びーとでお菓子を売ってますよ。」って呼びこみをした。販売は、計算が苦手なのでわからない。呼びこみが好き。来年はお菓子を売ったり、話し合いでSさんが言っていた物(雑貨)とかを売りたい。

地域生活支援センターひーと
Sさん



売り場が奥にあり目立たなかったので、呼びこみをした。呼びこみがあってよかった。どこまで呼び込みをすればいいかみんなで相談できてよかった。

なっていること。そして何よりも「武蔵野が好き」という気持ちにあふれています。
あったかまつりは、毎年、約10000人が参加する地域のイベントに成長しました。その名の通り、老若男女が交流を通してお互いを大切にする『あったかさ』を大切にしながら、地域の活性化にも役立っていきたいと思います。今後とも、ご協力ならびに応援をお願いいたします。
(武蔵野福祉作業所/石原 誠太郎)



第15回は会場が変更になり、来場者数が減少しないかと気に掛けておりましたが、その心配もなく年々来場者が増えていく様子で、盛大なイベントだったと思います。是非ともこのイベントを継続し、これからも地域に対して情報を発信していただきたいと思えます。微力ながら、お力になれば幸いです。
(武蔵野中央会青年部・部長/平井康昌)

大野田福祉の会では、毎年「あったかまつり」にゲームで参加しています。第15回は恒例の缶積みと、ゴキブリたたきでおまつりを盛り上げることができたのではないかと自負しています。わたしたち地域のボランティアとしては、障害のある方もない方もともに楽しく遊ぶことで顔見知りになり、なにか手助けが必要時に気軽に声をかけてもらえたらと、活動を続けています。今年は好天にも恵まれ、公園でのゲームは楽しかったです。
(大野田福祉の会/赤羽・伊藤)

コラム あったかポスターを振り返って

ポスター・チラシ企画は、第14回から試行企画として始まりました。「障害がある方のアートをデザインに使用したい」という思いからまずは実行委員の関係者から作品を募り、実行委員会内で選考を行いました。実際に集められた作品はどれも力強いエネルギーにあふれていました。「描きたい」「楽しい」という想いが素直に伝わってくるのが障害者アートの一番の魅力です。「いきいきしたポスターになった」「作品が使われて嬉しい」という反響を多くいただきました。「あったかまつりポスター」

という発表の場をつくるのが、作者本人だけでなく、保護者の方や活動をサポートしている方にとつての「自信」と「安心」の一助につながるのではないのでしょうか。今後はさらに広い範囲での公募にしたいと考えています。あったかまつりと、そこに関わる人たちを、多くのの人に知ってもらう「窓口」としてのポスターを目指して。(Open the egg / 指田ふみ)



個性にみちたポスターデザイン

今後のあったかまつりに向けて



気がつけば実行委員も5年目でした。5年を通して思うのは「あったかまつり」はイベントでもあり、コミュニティでもあるということです。実行委員の皆さんや当日来場された人たちとの交流から地域の生の声を聴くことができる素敵な機会です。障害がある人たちが主体的に楽しめるおまつりにしよう！というコンセプトで、この先も「あったかまつり」というイベントを、コミュニティを、実行委員の皆さんと力を合わせて創り上げていきたいです。

(ワークステージりぷる/金子 幸平)



ハッピー

第13回企画 まぼろしの第13回。台風で中止となり、活躍したのは14回から。実行委員の目印です。



Tシャツ

第10回企画 予約販売も含めて250枚を完売しました。〇〇時間テレビのTシャツのように毎年楽しみにしてもらえるように、新たな企画を考え中。

あったかまつりから生み出されたものたち

あったかまつりテーマソング

作詞・デイセンター
ふれあいの仲間たち
作曲・合田 晃

1. 僕らはいつも仲良し
友達がいっぱいいれば
勇気もいっぱいだ
世界は広いけど一つ
遠くまで一緒にいこう
みんなで手をつないで
幸せの大きな輪をつくらう

テーマソング

第10回企画 毎年みんなで合唱するのが定番になりました。作詞はデイセンターふれあいの皆さんです。



ヘルパーさんと楽しく食事中



10年目のRENGA

グループホームRENGA

重度身体障害者グループホームRENGAは、今年で10年目となりました。ご利用者の方々にも様々な変化が出てきています。看護師による胃ろうの対応が必要になったり、頸椎症のため痛みが出て体を思うように動かせなくなったり…。

ご利用者が地域生活を続けていけるように、今では居宅介護ヘルパーや在宅医療の医師や看護師、理学療法士の方々にもRENGAを訪問してご利用者の生活を共にサポートしていただいています。医師や看護師には薬や体調

グループホームRENGA

〒180-0011
武蔵野八幡町3-3-26
電話:0422-54-9255

→地図
P.8-A

※上の写真は、RENGAに食事や入浴で訪問して下さっている居宅介護ヘルパーさんとご利用者で撮ったものです

津田京子

(グループホームRENGA)

の事を相談したり、理学療法士には機能訓練や日常の姿勢についてのアドバイスをいただいています。ヘルパーさんは、和やかな食事時間を提供して下さいます。こうしてみると、ご利用者を中心に関係者の輪がどんどん広がっているのを感じます。週10名を超える方たちが運んでこられるのは、福祉医療サービスだけではなくご利用者を包む人と人のつながりでもあります。地域のネットワークを広げ、これからもご利用者の地域生活を支えていきたいと思えます。

食を通じて
地域とつながる
ほっと、一息
カフェ・ル・ブレ

→地図
P.8-B



見晴らしのよいカウンター席

寒くなってきましたね。口を大きく開けてハアアと吐き出した白い息が、どこまで伸びていくのか確かめたくなくなる季節です。普段は無意識でしている息が気になるのもこの季節ならではのしょうか。

「息が合つ」「息が通う」「息を呑む」など、「息」にはたくさんの慣用句があります。その中でも、市役所南棟8階のカフェ・ル・ブレは「一息を入れる」という慣用句がピッタリ似合う場所です。見晴らしのいいカウンター席から武蔵野の遠景を楽しみつつ、国産小麦と天然酵母で焼きあげたパンと、ミルクたっぷりのカフェオレなんていかがでしょうか？ 差し込む陽ざしに、

温まりながら、のんびりなんて日があってもいいと思います。

市民の方々の「一息入れる」空間として、愛される「息の長い」カフェを目指しています。どうぞ一度お立ち寄りください。

(ワークセンター) けやき
「カフェ・ル・ブレ」 / 西村真代

※次号はゆとりえキッチンです

ふれっど31号をご覧いただいた方に特典です。期間中500円以上ご利用のお客様にプチスイーツをプレゼント！左下チケットをお持ちください。スタッフ一同お待ちしております。

まちの人に 聞きました。

「福祉って 何？」

むさしのばやし
保存会会長

山寄 義勝さん



「むさしのばやし」保存会会長の山寄義勝さん（左）と保存会の浜名康一さん。
むさしのばやし保存会
武蔵野市吉祥寺北町4-13-27
TEL：0422-50-1387

500円以上ご利用の方
おグイスイーツを
プレゼント

武

蔵野市には無形民俗文化財に指定された「むさしのばやし」というお囃子があります。江戸末期に祭り囃子・神楽囃子として吉祥寺で発祥し、150年以上もの歴史を歩んできた由緒ある伝統芸能です。今回はこの伝統あるお囃子の保存会会長を務める山寄義勝さんにお話を伺いました。



お正月の「むさしのばやし」公演の様子。ご利用者からも人気の高いイベントです

ゆとりえでは「むさ

しのばやし」のお囃子公演がお正月の恒例行事となっています。

「ゆとりえとのおつきあいは20年近くになります。開設当初にお声かけいただき、今にいたりますから思い入れは強いですね」と語る山寄さん。お囃子を聞く心が弾み、明るい気持ちになれます。お

めでたいお正月を盛り上げる「むさしのばやし」の公演は、ご利用者はもちろん、ご利用者のご家族やゆとりえ職員からも人気の行事となっています。

◎地域との関わりを大切に

「むさしのばやし」は昭和46年に指定無形民俗文化財に指定されて以来、地域の祭りだけでなく、各地からお囃子の公演に呼ばれることも多く、行政主催の大きなイベントへの出演など、多忙な日々を送られています。また、海外へ招かれて文化交流を行ったり、逆に日本へ来られた方々への歓迎レセプションに参加したりと、その活動は多彩です。「行政からのバックアップをいただきながら幅広く活動していますが、地域との関わりも大切にしています。なかでも、小学3年生から中学卒業までの子どもたちにお囃子を教える「ちびっこ教室」は、スタートして40年になります。文化芸術を継承するだけでなく、地域とのふれあい活動としても大きな役割を果たしていると思っています」と、子どもたちに教

えているご自身の写真を笑顔で見せてくださいました。これまで千人を超す小さなお弟子さんが山寄さんの元でお囃子を教わったとのことでした。

◎民生委員としての積極的な社会参加も

保存会会長としての活動のほか、30代の頃から民生委員として地域支援を行っていたという山寄さん。「現在、民生委員は引退しましたが、この活動を通して福祉との関わりは多くありました。保存会の中にも、僕のように福祉関連に参加をしているメンバーは多いんですよ。やはり、福祉への取り組みや社会参加する人は、色々なことへの興味や関心が高いんじゃないかな」とお話しくださいました。

今年1月に81歳を迎えた山寄さん。年齢を感じさせないその凛とした若々しい佇まいは、格式ある芸能文化を支える会長ならではの魅力とともに「むさしのばやし」のお囃子で、今後もゆとりえに元気を運んでいただきたいと思います。

（聞き手：特別養護老人ホームゆとりえ 菊池政之）

作業を通して

力を発揮

ワークステージりびる

森谷 和徳

りびるでの支援は、ご利用者が作業を通して力を発揮できるように支えていく、という点がひとつ挙げられます。りびるの作業で求められることは、いかに効率良く、かつ正確に、迅速に行うかということです。その為、ご利用者がわかりやすく、できるだけ自立して取り組めるように作業環境を整える



みなさんの力が発揮できるよう作業をすすめます

→地図
P.8-C

ことが支援者に求められます。

しかし、支援者があまり先を見越して環境を整えてしまうことは、個々が持っている力やこれから伸びていくであろう力を削いでしまう懸念があります。同じように、生活支援の場面では、

自分で考える力、選択・決定する力、問題解決する力など、ご利用者の特性を考慮しながら支援する必要があります。ご利用者自身が向き合わなければならない事柄について、自ら解決することができた、成し遂げることができた、と実感してもらうことがそれぞれの自信や自律心に大きく関わってきます。それには、ご利用者自らがこたえを導き出していく力を信じ、そのプロセスを見守りながら必要な時を見極めて協力していくことがよい結果へと結びつくのだと思います。

今後、ご利用者が自立・自律を目指し、また、自信を持って作業に取り組み、社会とのつながりを感じながら、働く力が発揮されるよう支援して参りたいと思います。

上手に薬と

つき合って

欲しいから

武蔵野市桜堤ケアハウス

外山 恭子

母が体調を崩したことを機に、両親ともに薬を適切に服用していなかったことに気づき、私が服薬の支援をするようになりました。よくよく話を聞いてみると、新しく増えた薬のことを変更した薬だと勘違いしていたことがわかりました。



日用品の販売会を開催し、ご利用者の生活を支えます

→地図
P.8-D

桜堤ケアハウスも、薬を自己管理しているご利用者が多くいらっしゃいます。ご自身で通院して服用されていますが、医師や薬剤師の説明をしっかりと理解できていないことや、希望をうまく伝えられない場合などから、私の両親のように間違った服薬をしてしまう方もおられます。そのような場面でも相談員として、関係者と連携して通院の付き添いや医師への問い合わせなど、適時適切な支援ができるよう心がけています。

しかし、時にはその支援を受け入れていただけないこともあります。薬への罪悪感から服用を止めてしまったり、効いていないと思いついで飲み方を変えてしまったりなど理由はさまざまですが、自分のことは自分で決めたいという思いが根底にあります。

桜堤ケアハウスの相談員として、そのようなご利用者の気持ちにしっかりと寄り添いながら、専門職としても適切なアプローチを心がけています。ご利用者にとって最適な支援ができるよう、いつまでも勉強の日々です。

福々刻々

厚労省がまとめた「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」には、「地域における『新たな支え合い』を求めて」と題があり、住民相互の支え合いという住民主体の地域福祉が主張されています（平成20年）。武蔵野市の第五期長期計画にも「市民一人ひとりの支え合いの気持ちを紡ぐとともに、自発的かつ主体的な地域福祉活動を推進し、福祉課題解決に取り組むことが重要」という一節があります（平成24年）。

どの地域においても活発な市民活動が報じられています。私もそういう活動に少し関わらせていただいています。福祉を本業にしていない方の発想やエネルギーには感服することがあります。埼玉県で活動する木原孝久氏（住民流福祉総合研究所）は「ヒラ住民」の力を侮るな」といいます。「巨大世話焼きさんなどはプロが束になってもかなわない」とも。その「プロ」と名指しされる側で言えば、これからはそういう活力のある地域の方々と密接な連携ができる主体であるかが問われます。

さて、そこでわが身はどうかと考えます。私は地域社会における（社福）武蔵野の役割の再構築と実践こそが重要な課題だと考えています。もちろん法人の基盤である事業自体の充実・発展を期すことは第一ですが、それらと関連させながら地域で支援を必要とする様々な方々と向き合い、関係する皆様と力を合わせて取り組んでいきたいと思えます。総じて言えば、福祉的な街づくりの一翼を担うべく、我々は非営利組織であることに立脚し、果たすべき社会的役割を自覚して、地域社会との信頼や好ましい関係を築きながら目的を達成できるように努力していきたいということになります。

25年前の広告に「時は流れない それは積み重なる」という趣句がありました。ウイスキー熟成の価値を謳っているのですが、私は思いを持って良い時間を積み重ねていきたいと念じています。（理事長 安藤真洋）

ワンポイントアドバイス 心の荷物を 半分に減らそう



「全部わたしのせいだ。まじめで熱心な人ほど、このように考えてしまいがちです。責任を感じることは大切なことです。落ち込み、内省して、打開策を考え、次につなげることで人は成長します。しかし、必要以上に責任を感じすぎて、一人で抱え込むことはよくありません。

「全部わたしのせいだ」と考えることは一見すると格好よく思えますが、まわりの人が負うべき責任まで背負ってしまったともいえます。何か問題が起こったときに、誰か一人が悪いなんてことは、そもそもありません。誰かと揉めたときも、どちらか一方が悪いなんてこともめったにありません。

責任は皆で感じ、皆で負うものです。皆で責任を負って、皆でもに成長することが望ましい姿です。そうなるためには、「半分は私が考えなきゃいけないことだけど、半分は皆と一緒に解決したい」と考えることをおすすめします。

心の荷物を半分に減らしたとき、人は落ち着いて自分を振り返ることができ、仲間とともに成長する喜びを感じるようになります。



どんなときも「フィフティ・フィフティ」、今日からそんなふうに考えてみませんか。

誰でも相談室 カウンセラー
メンタルクリエイティブ代表 江口毅

社会福祉法人武蔵野 案内図

各施設は、児童サービス、障害者サービス、高齢者サービスに色分けしています。また、A~Dは本誌に記事を掲載している施設です。



今年1月より、社会福祉法人武蔵野のメールアドレスが新しくなりました。お手数ですが登録変更をお願いいたします。(代表アドレス) musashino@fuku-musashino.or.jp